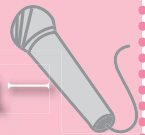


ま ちかど インタビュー



幼少期こそ英語に慣れ親しむことが大切

4月から、小学校と幼稚園で英語教育がスタートしました。これは、全国的に小学校英語への関心が高まる中で、低学年から児童の耳を英語に慣れさせることを目的に、町が独自の取り組みとして始めたものです。そこで今回は、英語教育の対象となる小学生と幼稚園児を持つ方に、ご意見を伺いました。



小学校生活がスタートした新1年生（広野小学校）



池田 有里さん
下浅見川・桜田

うちの子どもたちは英語に全く関心がなく、いざれ興味を持ってもらえればと思っていました。

今回、幼稚園から英語教育が始まると聞き、若干早すぎる感もありましたが、小学校でもパソコンの授業があるように、パソコンの普及にともない、ホームページの検索等（スベル）で使う機会が年々低年齢化していることから、幼稚園から英語に

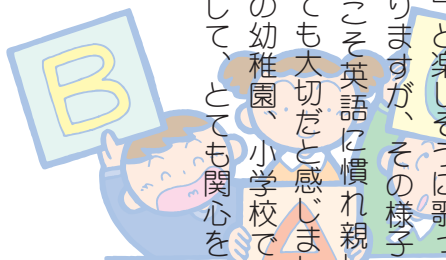
親しむという点では、良いのではないのでしょうか。
みんなと楽しみながら慣れ親しんでほしいです。



渡邊 久美さん
折木・上原

従来のような中学からの英語教育では、それまであまり耳にしていないう言葉に対し、「難しい」という先入観を持ってしまい、なかなかなじめないのではないかと思います。

以前、娘が、「学校で英語の歌を教わった」と楽しそうに歌っていたことがありますが、その様子から、幼少期にこそ英語に慣れ親しむことが、とても大切だと感じました。
今後の幼稚園、小学校での英語教育に対して、とても関心を持っています。



編集後記

「東北に春を告げるまち」をキャッチフレーズに、内外に暖かさを発信している広野町にしても、特別今年の冬は暖かかった。

温暖化が様々な悪影響を地球環境におよぼしていることが報道されているが、解決には私たち一人一人が問題を意識して日々気をつけるしかないようである。

暖かかった冬も終わり、私たちにとって4年に一度の暑い春が来た。

過去に二度の恥ずべき行為のあった当町だが、町を良くしようという思いは同じだと思ふ。

町民の声を真摯に受け止め、精進されることを願うものである。
(渡邊)

広報委員会

- 議長 坂本 紀一
- 委員長 猪狩新一郎
- 副委員長 塩 史子
- 委員 中津 伸一
- 委員 渡邊 正俊

次の定例会は6月です